
企業と大学の「知財」と「人財」の交流

東京大学大学院情報理工学系研究科

情報理工ARAプログラム

Advanced Research Assistance Program

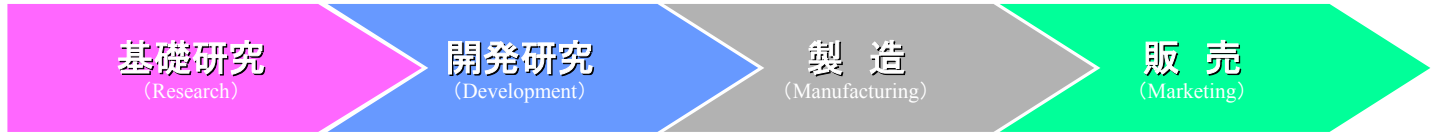
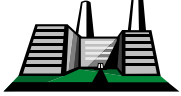
www.arap.jp

2004年2月

I-1. 21世紀のビジネス・モデルと科学技術基本計画

▼20世紀型ビジネス・モデル

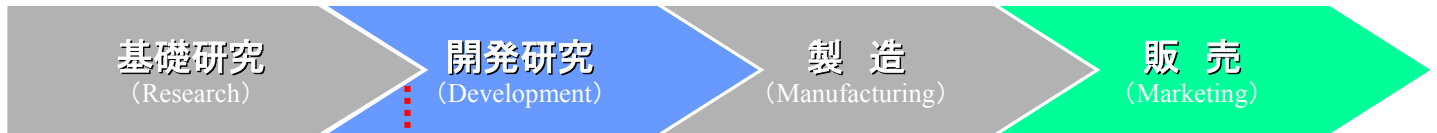
【ひとつの企業】



- 投資回収までの足が長い → ROA/ROEの悪化
- 産業構造が不明 → 投資リスクが高い

▼21世紀型ビジネス・モデル

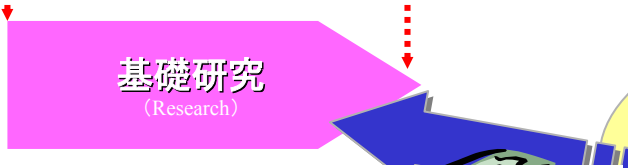
【開発・販売企業】



【製造専門企業】



【大学】



24兆円

科学技術基本計画・重点4分野

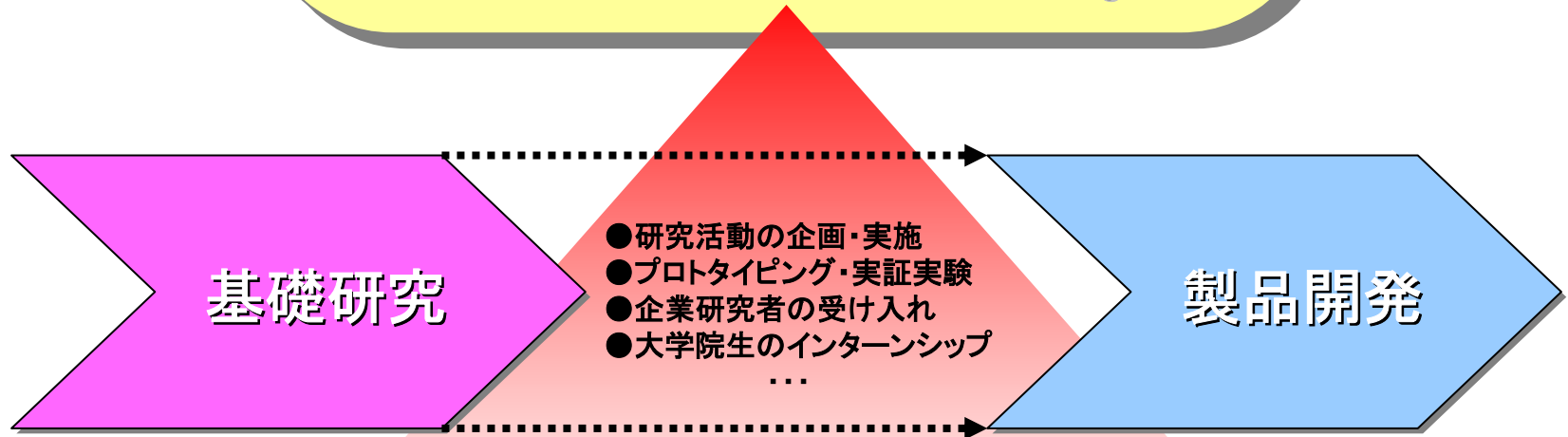
- 情報通信
- ライフサイエンス
- 環境
- ナノテクノロジー・材料



「科学技術・学術振興に関する当面の重要事項について」
～科学技術・学術審議会建議(平成13年8月9日)～

I-3. ARAプログラムの目的と位置づけ

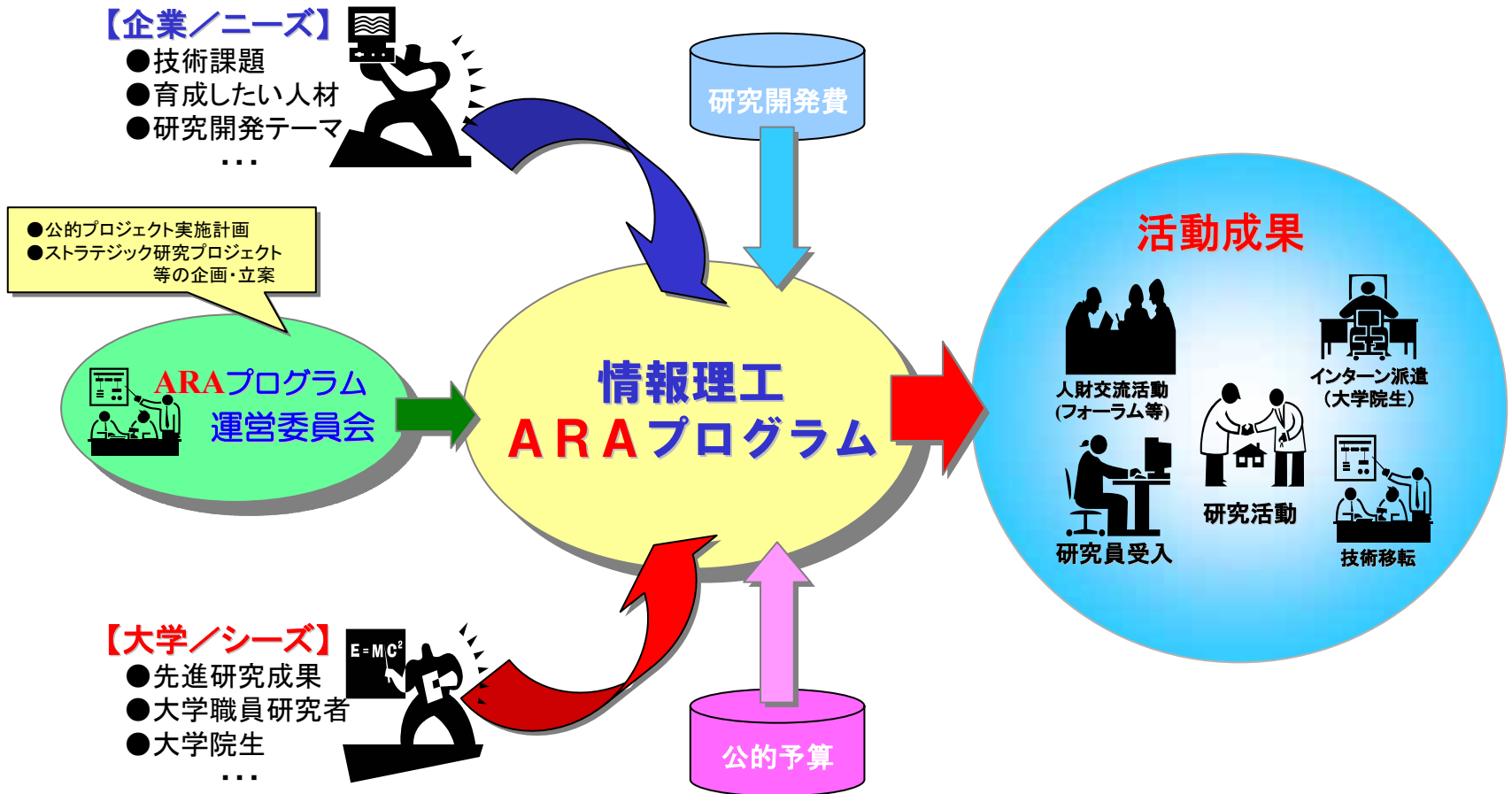
企業と大学の「知財」と「人財」の交流
情報理工ARAプログラム
Advanced Research Assistance Program



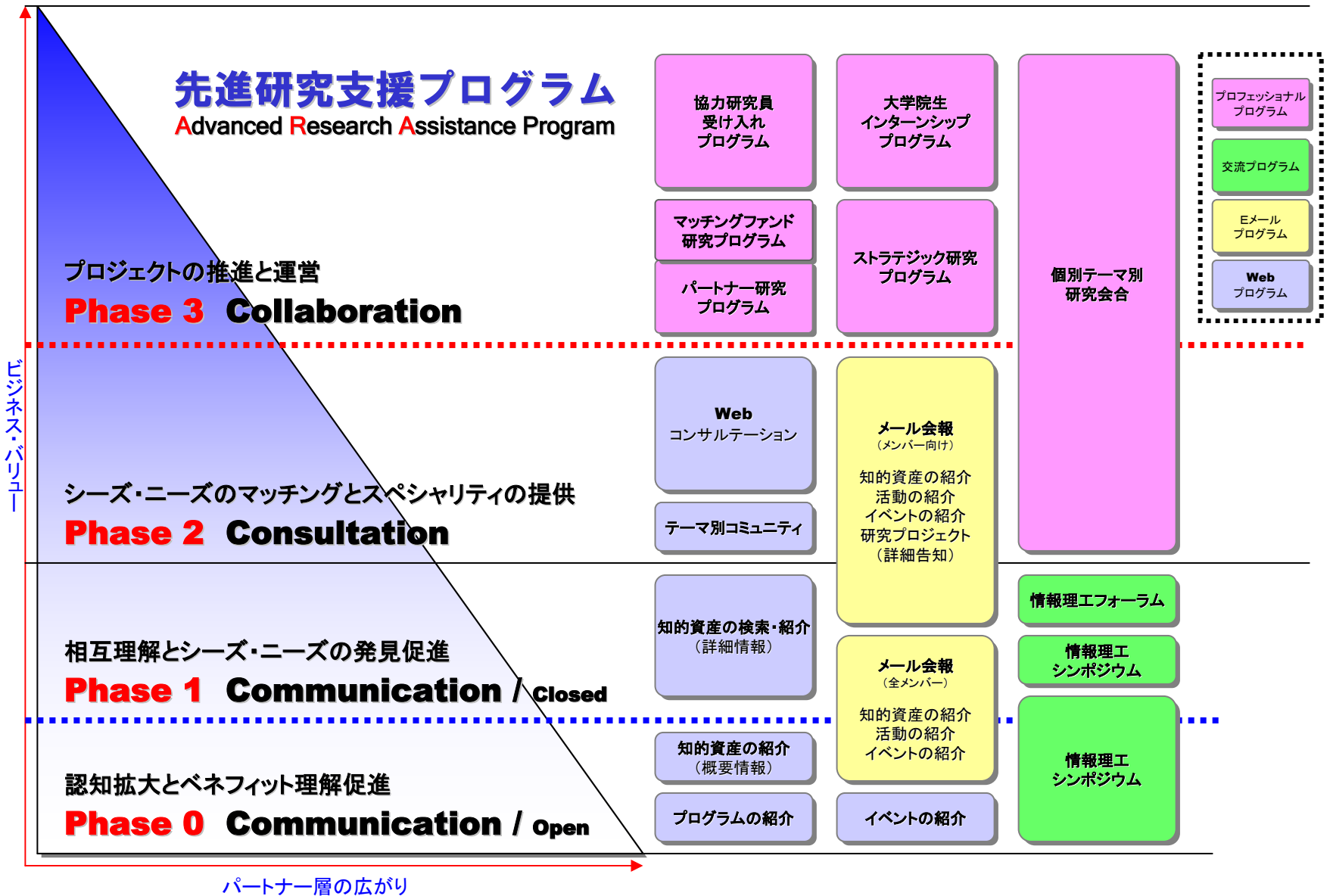
基礎研究から製品開発への橋渡し
を「産学連携」によって推進

I-4. ARAプログラムの全体構想図

情報技術基礎研究所

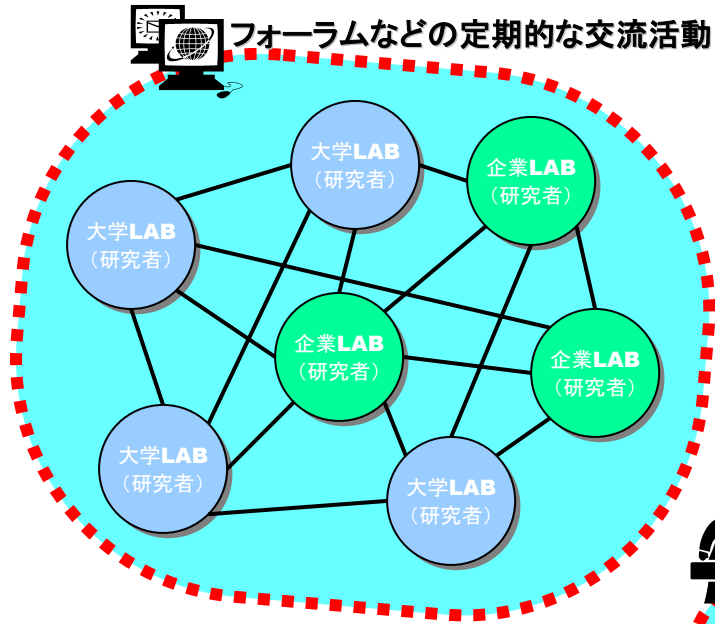


I-6. 活動内容とプログラム



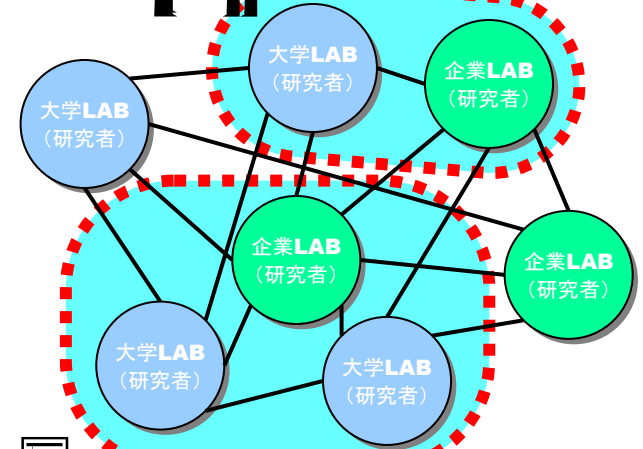
I-7. 運用のフェーズ

【フェーズ1】



【フェーズ3】

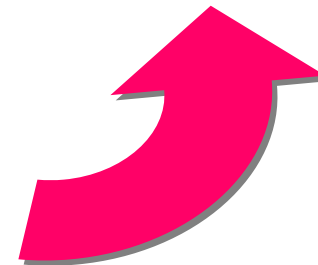
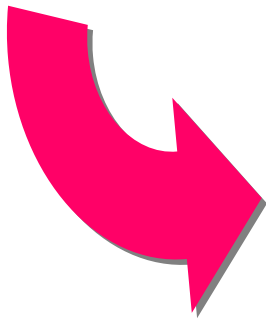
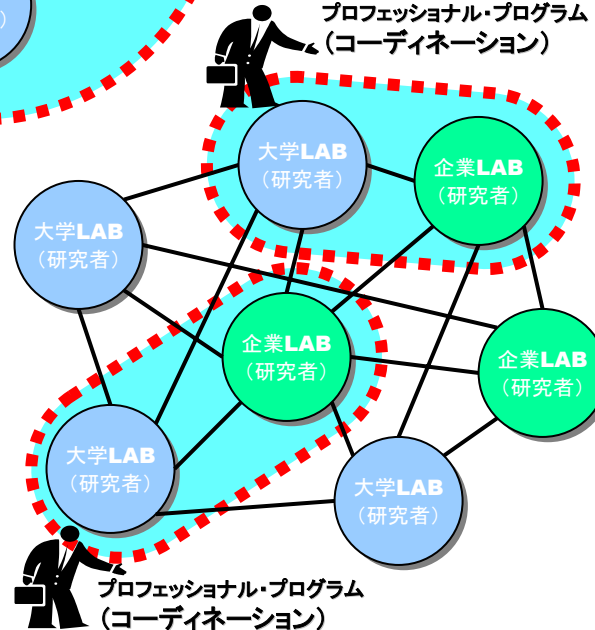
プロフェッショナル・プログラム
(研究活動/技術移転等)



【フェーズ2】

プロフェッショナル・プログラム
(コーディネーション)

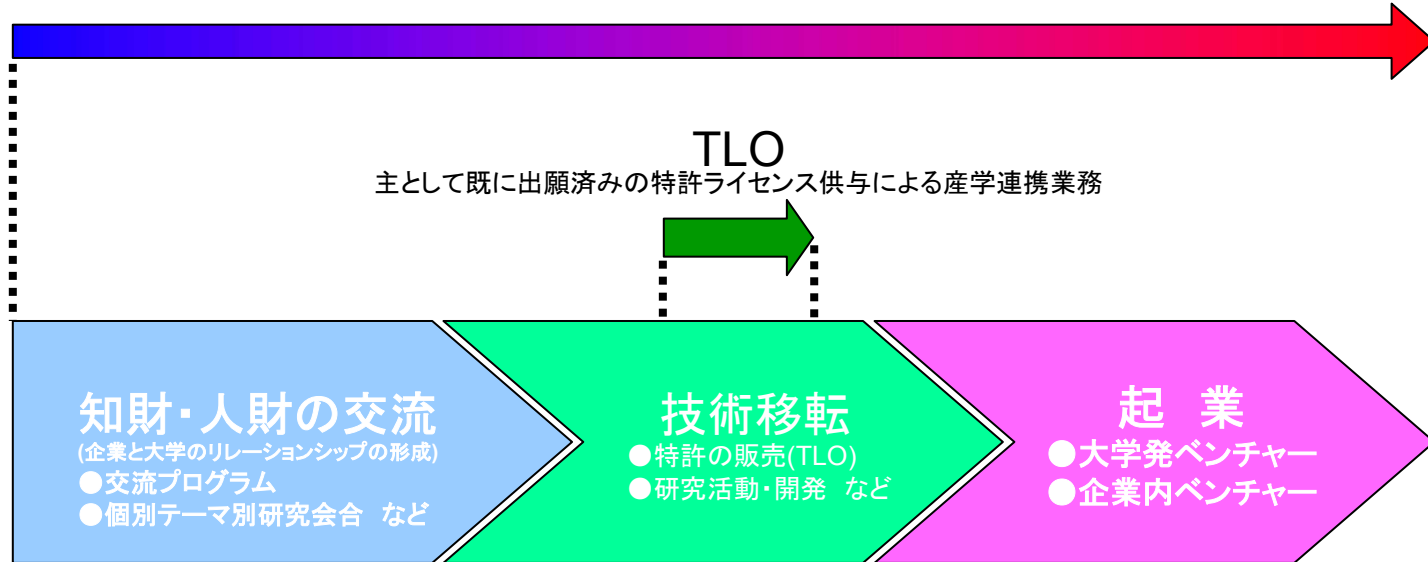
プロフェッショナル・プログラム
(研究活動技術移転等)



I-8. ARAプログラムの位置付け

ARAプログラム

大学と企業の研究者および研究グループ相互の安定的且つ長期的で深い人的交流を含めたネットワークの構築を基点とした産学連携の活動



日本の国立大学では、その職員が取得した特許は、特別な例外を除いて個人に帰属します。これら既に出願済みの特許のライセンス供与による産学連携を主な業務とする学外企業が、TLO(Technology Licensing Organization)です。

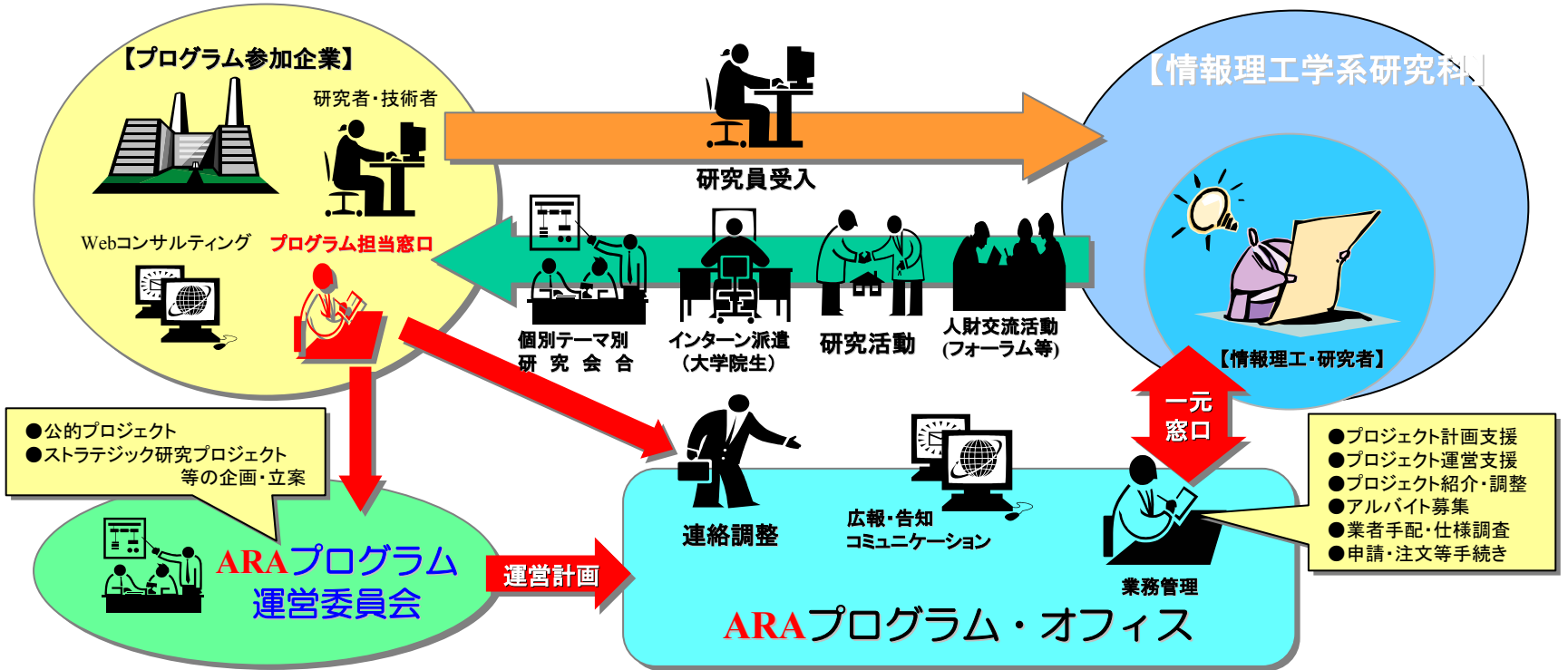
これに対して「ARAプログラム」は、東京大学情報理工学系研究科のプログラムで、インキュベーションのフルサービスを目指すものです。大学と企業の研究者および研究グループ相互の安定的且つ長期的で深い人的交流を含めたネットワークの構築を基点とした産学連携の活動です。



米国の大学は私的法人であり、特許はすべて大学に帰属します。そして大学の組織であるOTL (Office of Technology Licensing) がライセンス供与の業務を行います。

I-9. 運用の仕組み

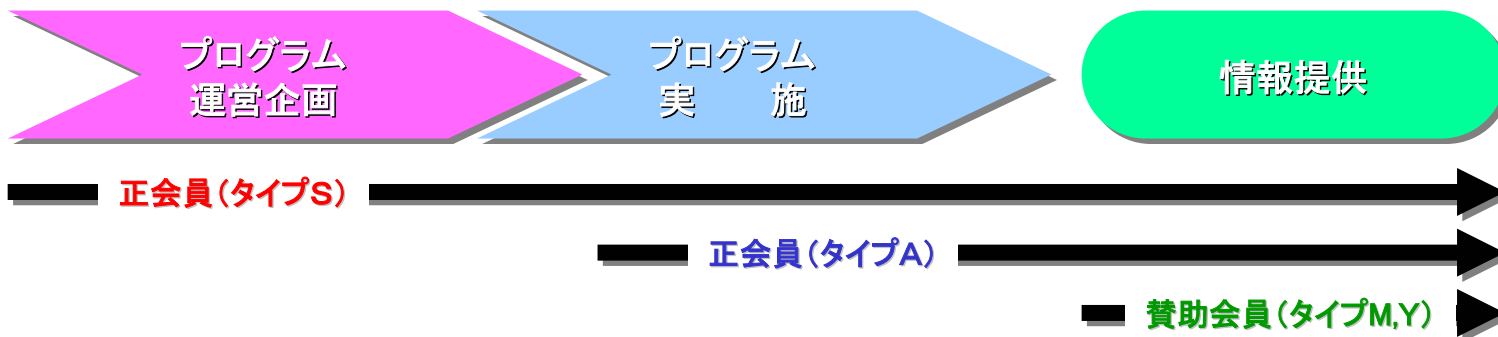
【ARAプログラム】



【現行】



I-10. 正会員と賛助会員



● 正会員

ARAプログラムの全般に渡り、その活動に参加する資格を有します。

タイプS	プログラム全般の運営と各種プログラムの企画から参加する資格を有する。(運営委員会参加資格有)	---万円/年	(税別)
タイプA	各種プログラムの実施段階から参加する資格を有する	---万円/年	(税別)

● 賛助会員

タイプM	ARAプログラムに関する情報提供を受ける資格を有する。	---万円/年	(税別)
タイプY	ARAプログラムに関する情報提供を受ける資格を有する。(資本金1億円以下、または、従業員数100人以下の法人限定)	12万円/年	(税別)

Ⅱ-1. 平成14年度活動実績概要:

(1)フォーラム:

	開催日	テーマ	リソースパーソン
第1回	4月19日	①「マルチモーダル・メディアへのアプローチ」	石塚 満(電情)
第2回	5月15日	①「ディペンダブルコンピューティング」 ②「大域移動分散システム」 ③「認識行動システム」	坂井修一(電情) 平木 敬(コ科) 下山 勲(知機)
第3回	6月12日	「勢力圏図とその応用」	杉原厚吉(数理)
第4回	7月15日	*シンポジウムと同時開催	(電子情報)
第5回	9月11日	「コンピュータクラスター」	石川 裕(コ科)
第6回	10月9日	「音声と文字の認識」	嵯峨山茂樹(シ情)
第7回	10月29日	*シンポジウムと同時開催	土肥健純(知能機械)
第8回	12月11日	「人に優しいロボット」	佐藤知正(知能機械)
第9回	1月15日	*シンポジウムと同時開催(クローズド)	
第10回	2月12日	「知的で巨大なテキスト・アーカイブ」	辻井潤一(コ科)
第11回	3月12日	「COE経過報告」	井上博允(知能機械)

Ⅱ-1-2. 平成14年度活動実績概要：

(2)シンポジウム

	開催月日	主テーマ	オーガナイザー
第1回	7月15日	「虚と実を紡ぐメディアテクノロジー」	西田豊明 教授(電子情報学専攻)
第2回	10月29日	「メディカルフロンティア」	土肥健純 教授(知能機械情報学)
第3回	1月15日	「独法化で大学はどう変わるのか」	ARAプログラム・オフィス

(3)メールマガジン： Vol. 1～12発行

◆個別テーマ別研究会合

各社複数回実施

◆研究活動

16研究テーマ実施

Ⅲ-1. 平成15年度活動重点： 企画プロジェクト型研究活動(連携テーマ)の実施

◆ 人的交流、情報交流のステップを踏まえた実効ある連携テーマの抽出

回	月 日	テーマ	リソースパーソン
1	4月24日 (木)	「ユビキタスネットワークの展望-Beyond Internet」	青山友紀 (電情)
2	5月21日 (水)	ディスカッション・フォーラム 第1回 「ヒューマノイドが開く未来社会と新産業の創成」	井上博允 (知機)
3	6月11日 (水)	ディスカッション・フォーラム 第2回 「ヒューマノイドが開く未来社会と新産業の創成」	井上博允 (知機)
4	7月9日 (水)	「インターネットの将来像」	江崎 浩 (電情)
5	9月8,9日 (月、火)	COE、ARA合同シンポジウム	————
6	11月5日 (水)	「ヒューマノイドプロジェクト インTRODクシヨソ」	井上博允 (知機)
7	11月12日 (水)	シンポジウムとの同時開催	————
8	12月26日 (金)	企業オンサイトでの実施 「IPv6アプリケーションの最新動向」	江崎 浩 (電情)



ARAヒューマノイド・プロジェクト
- 人型ロボットによるICBコンピューティング -

Ⅲ-2. 平成15年度活動重点： 連携テーマの展開

ARAヒューマノイド・プロジェクト - 人型ロボットによるICBコンピューティング-

センサーネットワーク (ヒューマノイドプロジェクトとの連携も検討)

情報技術と社会問題、環境問題

正会員(タイプS)

- ・日本電信電話
- ・日立製作所
- ・富士通研究所
- ・松下電器産業

正会員(タイプA)

- ・デンソー
- ・野村総合研究所

賛助会員

- ・中小、ベンチャー企業

必要に応じて学内横展開

東京大学
情報理工学系
研究科